ねこから目線。開業５周年

ねこから目線。が 2018 年に開業してから気づけば５年が過ぎ、６年目に突入していました。時が経つのが早過ぎて怖いです。未だに「20 代で若いのに頑張ってるねぇ」と声をかけていただいたりするのですが、28 で開業しているので、20 代なんてとっくに終わり今や 30 代半ばです。若いのに頑張ってるね！という多少の事は多めに見てもらえる特権は、あと何年使えるのでしょうか。さて、今回のマガジンでは数字的な振り返りではなく、ねこから目線。という私の個人事業として始めた活動が、社会の中でどんな役割になってきたのか、また猫の社会問題を解決する為に収益事業に取り組む社会的企業という形態に代わった今、社会の中でどのような役割を担い始めているのかを考察してみたいと思います。

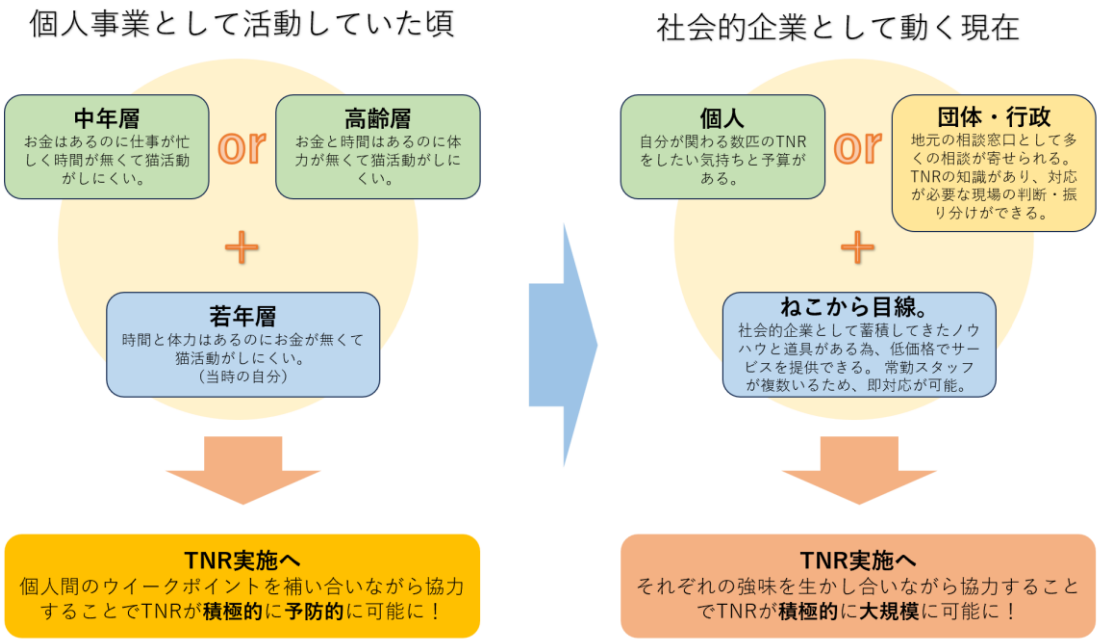
ねこから目線。の構造の変化（開業６年目、法人化３年目）

ねこから目線。は 2018 年に個人事業として開業してから、一般の方が気軽に「業者を使って自分で TNR（Trap ノラ猫さんを捕獲し、Neuter 不妊手術を施し、Return 元の場所に戻す活動）をやる」という選択肢を社会の中に作るんだという思いで、主に個人の方との連携をメインに活動してきました。以前のマガジンでも書きましたが、ねこから目線。を個人事業として開業した当初の構造としては、「時間と体力はあるのにお金が無くて猫活動がしにくい」若年層、「お金はあるのに仕事が忙しく時間が無くて猫活動がしにくい」中年層、「お金と時間はあるのに体力が無くて猫活動がしにくい」高齢層、というそれぞれの世代なりに、満足に猫活動がしにくい理由がある、ということを踏まえて、それぞれのできない理由を補いあう仕組みとして若い世代の自分が上世代の方々に使ってもらう手段に徹することでバラバラだった歯車が回り出し、個人活動の頃は年間 10 匹程度の TNR が限界だったのに、個人事業として開業したことで年間 600 匹の TNR 対応ができるよう

になりました。

個人の方と繋がれたことの最大のメリットは**予防的な TNR の実施が可能になった**点です。どうしても行政や団体に相談がくる段階になっているケースはノラ猫が増えてしまい問題化することころまで至っていることがほとんどです。一方、ねこから目線。に費用を払って依頼してくださる個人の方は「自分の家の庭にノラ猫が通い始めたので、この 1 匹だけを TNR したい」という問題化する前の段階の方からの予防的な依頼が多いです。問題化している 10 匹現場を 2 カ所対応することも、問題化前の 1 匹現場を 20 カ所対応することも、手術の予算でいうと同じ 20 匹分ですが、事後対策としての TNR か、予防策としての TNR か、その意味合いは大きく異なります。多頭飼育崩壊の問題も問題化する前に予防的に介入する体制を構築することの重要性を訴え続けている私にとって、予防的な TNR を実施する仕組みの一翼になれたことは非常に嬉しいことでした。

そして、2021 年に株式会社化し、社会課題解決の為に収益事業に取り組む社会的企業として活動を加速させました。それにより、個人の方だけでなく、会社さんやマンションの管理会社、広く活動しているボランティア団体さんからのご依頼を多くいただけるようになり、年間の TNR 対応頭数は年間 1,500 匹に増え、毎月 10〜20 件の迷子猫対応や、ご依頼の中で得た知識を社会に還元していく勉強会や講師の依頼も沢山対応できるようになりました。



ねこから目線。のスタッフも若年層に限らず増え（そもそも自分も若年層から中年層へ変化）、会社組織として個人の方や、団体さん、会社さんとお互いの強みを生かしながら協働していける構造に変化していったように思います。

ボランティア団体さんとの連携って具体的にどんな感じなのか、１つ実際の業務提携の形を紹介したいと思います。

NPO 法人尼崎 C.O.N さんとの業務提携、新しい協働のカタチ

2022 年の年度末に兵庫県尼崎市で長く活動をされている老舗ＮＰＯ法人尼崎 C.O.N さん（Cat Operation Network、以下 C.O.N）から「費用は C.O.N が負担するので、ねこから目線。さんに捕獲などを NPO として依頼することは可能ですか？」と LINE をいただきました。「もちろんです！！！」ということで、そのままどういう形なら連携していけそうかの打ち合わせに入りました。

まず、C.O.N さんが抱える問題意識としては、“ノラ猫問題の相談に対しスピーディーに対応する体制を整えたい”というものでした。しかし尼崎 C.O.N さんはロゴに TNR-AMAGASAKI と入っているほど TNR 活動に 15 年以上尽力し続けている関西でも指折りの老舗団体さんです。そんな団体さんがなぜ TNR 対応をしづらくなってしまっているのでしょうか。その背景には、事業の多角化による人手不足とメンバーの高齢化による肉体労働力の低下という問題がありました。

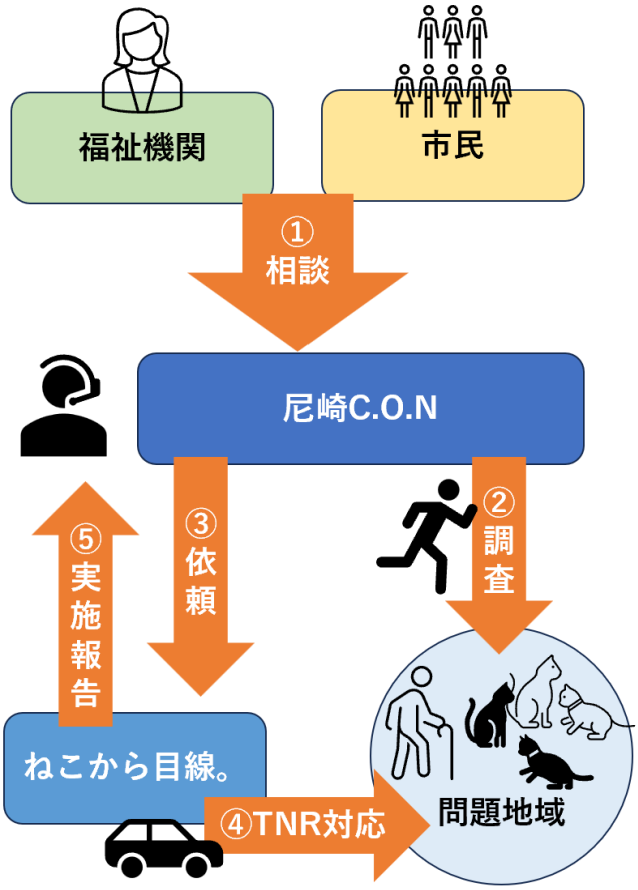
元々は 2007 年にホームレス猫不妊運動ネットワークとして発足し、ノラ猫さんの TNR や地域猫活動に力を入れていました。15 年前の当時はメンバーも若く、捕獲器をもってあちこち走り回ることができていました。しかし、給料の出ない完全ボランティア活動であるため、若い世代の加入が無く動ける人員が限られ、昨今では猫の問題の多様化に伴い、C.O.N さんの事業も、ペットと高齢者の安心プロジェクト（ペットの飼育に支障が生じている高齢者への継続的な訪問支援)、猫のなんでも相談窓口の設置、ペット同行避難訓練、地域猫活動、勉強会の実施、行政への政策提言、と多角化していきました。そのため、労働力は減るが事業は増えるという状況に陥っていたそうです。

話が逸れますが C.O.N さんの活動スタイルがめちゃくちゃ凄いなと思うので少し紹介させていただきます。例えば、多くの自治体で TNR の医療費が助成されるケースが増えてきていますが、医療費の半額補助レベルで止まっているところが多く、よくても不妊手術費の全額補助という中で、尼崎市の TNR の助成金は手術代だけでなく、術後の 1 泊入院費や病院の送迎費まで対象となるとても使いやすい仕組みになっています。その背景には実際に助成金を現場で使う人たちの意見を吸い上げ、より市民が使いやすい形へ内容を見直すように毎年行政へ働きかけている C.O.N さんの地道な活動があります。さらに、今でこそふるさと納税を NPO や動物行政の財源にする取り組みは一般化してきていますが、まだまだふるさと納税自体がメジャーでなかった 2008 年の時点で、C.O.N さんが「財政面で置き去りにされがちな動物愛護行政に、新たな自主財源の確保で光を当てたい」と全国で初めてふるさと納税「動物愛護基金」の設置を求める署名運動を行い、2012 年から尼崎市でスタート、昨年の令和 4 年は 2 千 7 百万円もの額が尼崎市に集まる重要な財源に育っています。先見の明を持ちながら、着実に実績を積み上げていく活動スタイルはとても勉強になります。

そんな尼崎 C.O.N さんから TNR の連携の打診をいただいた時に、「なるほど、NPO 組

織も優秀な団体は現場で走り回るの新入社員みたいな時期から、事業を作って現場スタッフを手配管理していく、管理職の時期へ移っていくんだなぁ。」と思いました。限りある資源（人・年間予算）の中で頭を使うことに時間を割いた方が、良いスタッフの時間を無理やり TNR の捕獲対応に割くよりも、コストや稼働率を考えた結果、ねこから目線。という業者に委託した方が、猫と市民のメリットが高いと判断してくださったという事でした。業者を使うという事業案は理事会で反対意見でませんでしたか？と恐る恐る聞いて見たところ、「全くでなかったですよ。そりゃその方が良いねって満場一致でした（笑）。捕獲器の貸し出しだけ対応して地域の人に自分たちで頑張ってもらう形も以前やりかけたことがあるんですけど、やっぱり素人の捕獲って猫が怪我してしまうリスクもあると思うと心配で、結局現場に行ってしまうんですよね。その点、ずっと仕事のやり方を見てきたねこからさんになら安心して任せられますから。」と嬉しい回答をいただけました。泣くー。

仕組み



業務委託の仕組みはこうです。

①　まず、猫のなんでも相談窓口を設置している C.O.N さんの元へ相談の電話が入ります。

②　内容をヒアリングし、C.O.N のメンバーさんが現地に赴き、問題が起きている地域の状況を把握します。

③　その上で、TNR の支援が早急に必要であると判断した場合、現場の大まかな住所とキーパーソン（主に餌やりさん）の連絡先と共に TNR 対応依頼がねこから目線。に送られてきます。

④　受け取った連絡先にねこから目線。の担当スタッフが電話をし、TNR の捕獲にあたっての細かい調整を地域の方と直接行います。そして病院の予約も押さえ、TNR を実施。

⑤　リターンまで完了したところで、C.O.N さんに完了報告をし、医療費とねこから目線。の対応費用を振込みしていただく流れになります。

通常の依頼では依頼主さん＝費用をお支払いされる方、が現場にいるので、捕獲時間の延長など現場で相談をしながら進めていきますが、委託業務の場合はそうはいきません。そのため、事前に 1 案件の上限捕獲時間と取り決めを行う、上限時間の範囲内で現場スタッフの裁量で捕獲時間を判断して動かせてもらっています。

目立つことがポジティブに捉えられている関西の文化

昔、大学生になりたての頃、バスケ部の監督に「おい」と呼ばれて行ったところ「あのな、赤信号、皆で渡れば怖くないってやつあるやろ？あれはな、関西では違うねん。一人で渡っても怖くないのが関西人やねん。」と教えてくれたことがありました。今思い返してもなぜあの時それを私に言ったのか。何を暗に伝えたかったのか、さっぱり分かりません。でも 15 年経っても時折思い出す名言でした。

ねこから目線。のフランチャイズ説明会をＺＯＯＭで開催しているのですが、ダントツで多い質問が「皆がボランティアでやっている保護猫活動を有料でやると宣言して、地元の団体さんから非難されないでしょうか？」というものです。実際、動き始めているＦＣ店では、金儲けするなんてけしからん！というような批判を間接的に伝えられた事もあったそうです。どう考えても社会の中に必要なサービスだと確信しているので、批判を受け続けようがやり抜いて、社会の中で保護猫活動に有料サービスもあることが普通な事だという認識が広がり、ボランティア団体さんでも批判を恐れずに一部有料事業を作って自走できる運営がみんなで出来るような土壌を作っていきたい。と初めは鼻息荒く考えていた時もありましたが、思い返すと関西では全然誹謗中傷被害に合わなかったんです。それどころか、応援してくださるボランティアさんや団体さんだらけで、ボランティアさんたちに育ててもらった会社だと断言できます。

それはなぜだろうか？と考えた時に、バスケ部の監督の言葉が頭をよぎりました。赤信号を一人で渡っても怖くないというマインドを持っている関西だからこそ、**目立つことがポジティブに捉えられている。“よく知らないものは叩く”のではなく、“なんかよう知らんけど、おもろそうやな”という軽いノリで接してくれる。だからこそ出る杭も別に打たれない。**そして便利なものが好きだから、使えると判断したらガンガン利用してくれる。

そういった関西人の県民性があったからこそ、ねこから目線。は成長してこれたんだと思いました。監督、15 年経った今、やっとあの時かけてもらった言葉の意味が分かった気がします。

尼崎市のふるさと納税の仕組み色々

①尼崎市の動物愛護基金に納税したい場合

ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」「さとふる」「ふるなび」「au PAY ふるさと納税」「セゾンのふるさと納税」「ふるラボ」から納税ができます。尼崎市ふるさと納税では、寄附金の使い道を 14 種類から選ぶことができます。そのうちの一つに動物愛護基金があります。

②尼崎 C.O.N さんにふるさと納税を使って寄付したい場合（個人）

尼崎市ではふるさと納税を活用した NPO 法人への寄付を受付しています。この仕組みもまた面白く、さとふる×キャンプファイヤーがサービスを提供しており、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングでは、自治体が事業起案者になるため、地域が抱える課題や新しい取り組みに対して直接支援することができます。

尼崎市の NPO 支援制度の詳細はこちら
https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/siminsanka/130katudo_sien/1033852/1033855/1029809.html

尼崎 C.O.N さんのふるさと納税を活用したクラウドファンディングはこちら
https://www.satofull.jp/projects/business_detail.php?crowdfunding_id=333

②尼崎 C.O.N さんにふるさと納税を使って寄付したい場合（法人）

さらに、企業版ふるさと納税で、「企業版ふるさと納税型 NPO 活動促進事業」もあります。うっかり利益が出過ぎた企業様、どうせなら納税するお金の使い道選択してみませんか？
https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/siminsanka/130katudo_sien/1033852/1033855/1032612.html

すっかり尼崎市の回し者のようになってしまいましたが、良い取り組みはどんどん紹介していきたいですね！

おわり

小池英梨子
ねこから目線。～保護猫とノラ猫専門のお手伝い屋さん～　代表
NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク
「人もねこも一緒に支援プロジェクト」　プロジェクト代表
ご意見・感想・お問い合わせ：e.kosame12@gmail.com